繪本甲越軍記

四

へ遠13
2214
4

門 遺 13
2214
巻 46

源信公

藻信公

長遠ちの住居
法奥
北尚

馬場
北条方
勇戦
松田尾張守
とやぶる

玉蘭齋譯
貞秀画圖
松田尾張守

福坂帶刀
呉服兵左エ門

牧野
陣弥弟同為蔵
松枝城主安中越前

みの
養輪城主長野信濃守
安中城主同名左近

繪本甲越軍記第九編惣目録

伝云公富士の吉兆附ふじ馬の事　同其図
武州八王子の城を小係陸奥ち長田勢と合戦
の事　同其図
小山田云湯浅勇助名の事　同其図
高坂弾正大将の心あとをくらふる事　同其図
馬場美濃ち大将の心あとをくらふる事　同其図
伝云公小田原へ打入事　同其図
初鹿野伝右衛門　酒匂川渡ふこの事
同其図

武田勢小田原城の遠浦に門を結ぶの事

同其器

弓場美濃守内義俊陣中へ遣を送る事

伝兵の命によりて弓場小兵方の松田尾張守

俊宅をせめる 同其器

みまを使合戦の事 同其図 同其二の器

小兵陸奥守活殺樂報恩物語の事 同其器

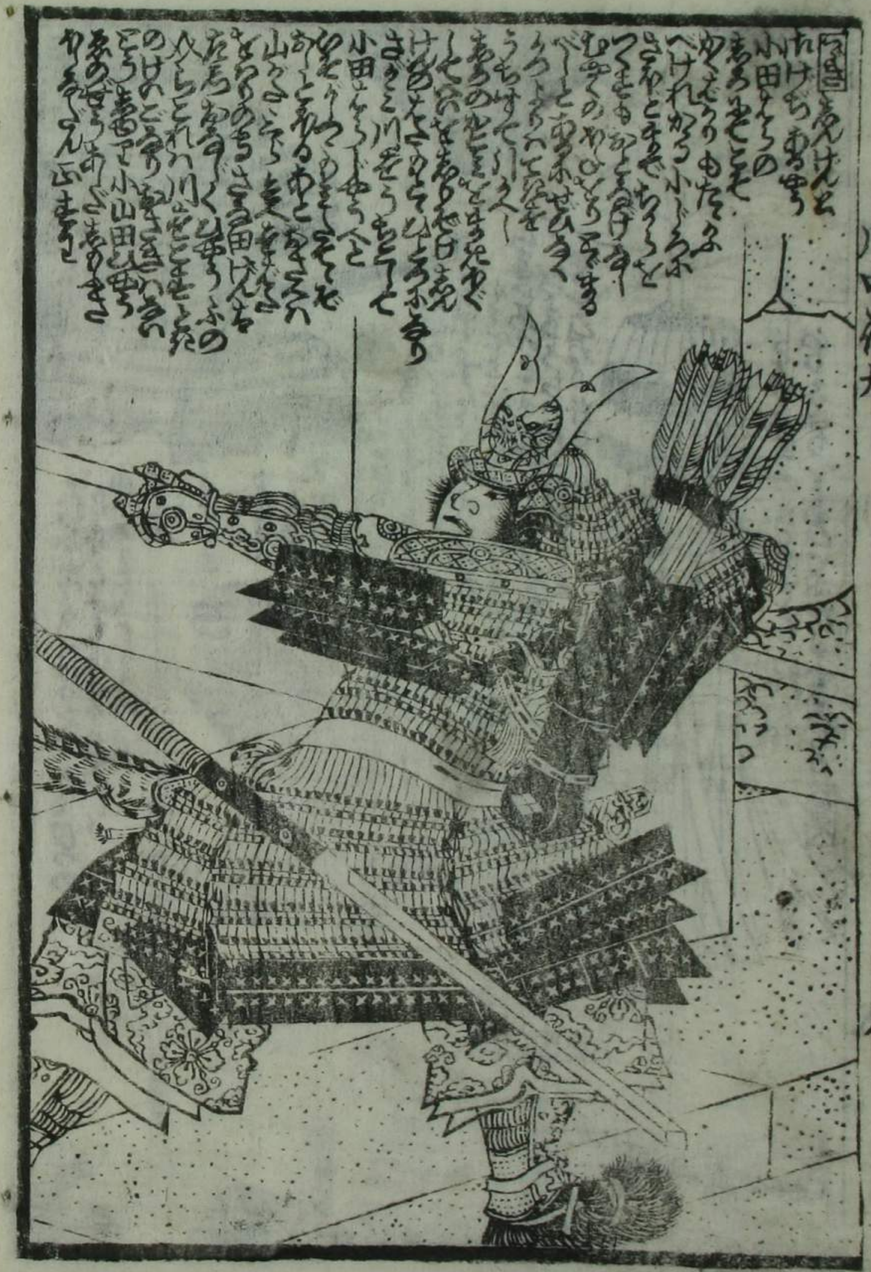
武田方米倉丹後守小兵方の斥候を結ぶ中

沼川を渡る事 同其器

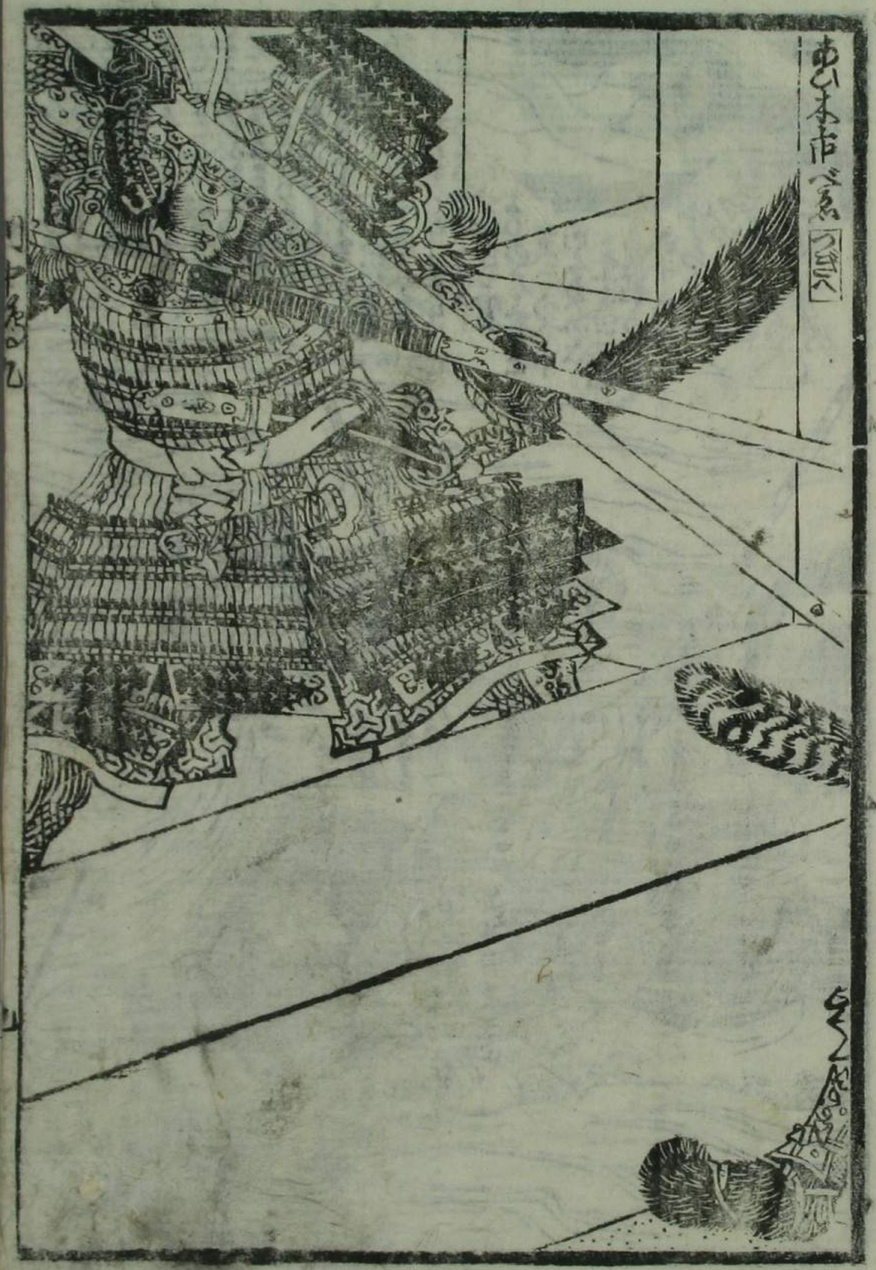
武田小兵左右せめ大合戦の事 同其器

第九編惣目録終

八幡大菩薩



つぎは　あべけんと
たけちの　ものがたり
小田とたつの
ものがたりのことを
やくだりのもたふ
べけれかろふ　ふしぎろふ
さやとまぞちくろを
つくもるかとをけす
むかしのやひとりてする
べーとあるふせいろく
くろうとろいてをを
うちすてーうえー
あるのかとをとはるやく
してをのをとあるをはひとあるふ
けものをとさるをてひとろふとあり
さるとりをうもとーて
小田とたつしやうべと
やをうつのをとーてを
かーとあるやとをとをこへ
山くさをとをを美ををとを
をとろのちさを田げんを
をたちあるすくををうふの
人らとをれいりをとををとをた
のけのとをりをさをいろの
をう蕃て小山田とをう
をのをうあるををきを
やををん正をを



玉蘭齋編
貞秀画

東國
新羅
源氏之末流
武田伊奈四郎
勝頼公之嫡男
武田太郎信勝君之像

玉蘭齋譯
貞秀画

川中嶋軍記十編大尾　上之巻

義信公武田之家ふを継ぐを謀る　同碁図
服部玄蕃氣政信公を謀るる　同碁図
長坂長閑入道憂ふを初め士を討る事

同碁図
義信公へ強諫　浮人を入る　同碁図
信玄公密ふ諸士を集給ふ事
附り　強諫ふ諸士縛せらる事
服部玄蕃切腹ふ告ぐ事
同諸士の内大角ふ切腹ふ事

同碁図
東海道より甲州江塩運送図
義ふ関所を免る事　密ふ運送ふ
者を召捕る図　甲州伝物上物雑義ふ事
上杉謙信公仁義甲州江塩運送ふ事　同図
東海道の落中より伝玄公病ふ甲州へ
帰陣の事　義を代異の乱る事　同図
小田原の仕者を謀る事　同碁
謙信公代異を防ぎ死ふ事　上杉家系譜
武田勝頼公家和睦ふ乱る事

総目録終

○ふようてんようぐのこと

【▲左上の】そうこふうちゆうぐ

あわーとのこどもちょうのがりてあるるりめあり

まんのてんあるるまりのとひふときいひとめいあり

まんていいちょうりあるうばぐろあて一人ちろ　じめい

ぐるるときうんをあるこ

ふうりてつるの紀とよりき

ありとのてんうんふさうふ

りのあるおよびぬ一チ人

をあ人ふてとそむとても

あふ一笑ぬのうぬとあるる

あうれともそがうんふとくる

ととのそむときいむ罪とあるる

いぐあるきいたのあるとあるろぬし

のあるとしるふとふうけぐまん

ぐんごろいてんんつよくまくく

けるあるあるのいきやひさうんふて

四まうのくふうりうあるうに

ちちいくんりのあくまんぜいを

あるくしあのふとろふちゆうまん

太ふ年はしのぶとろさきぐろと川

中おあのうあせんのありさまをきき

つーあふふちくのぐんだいあやいふ

ときふこぐひとふうふあるうせぬふ

ぞうじハぞうのあるゆうしいたのふう

【▲左上の】そうこふうちゆうぐ

ぐ罪いやあるをくふ

名あるるいまぐうを

ありくうくれねふとと

までふとふうあり

これとあるよこくふきて

えていよくあるぐんハ

いよきのそゆてさるを

ふそうるるるとうえがく

せううのぐろうう

まじのたいあるぬ

うるるぐちりんをじ

むあせあばまとふこく

ごの罪あうまはハ

せんやむときあるる

ーあるあれば百あるう

をまじあるんるる

ごうんふくるあむとと

ひつぢぬうりこれと

まくこうんとこのたいぬて

いあいうりうじちあん

けんをいんきてふさご

めかとくふうるとこと

えるらいんとうふあり

いうぐありとのあふふぬ

あるふあるるるとこと

ちのるぐどいぬき

さまうあるるとちぬ

とあいんぐうハ

【●左中よりの】あんけんとうハ

あんらいのぶどうこうを

さんあるいまぐハけふ

あーとめていんきそのし

ゑされひるゆゑあるあんあ

なりとのんどゆうーのぬ

とうのいきわいまるどきを

おらんあるうせまるこのめ

あんあかいさせこぐふ

ときをそうりたまひて

これゆあふふかく

うとくこまふところ

よりうようりきこハ

ちのせへーつあんふとふ

いらせこあのふところ

よりこれとあのーー

さまふゑあるがようーのぶ

とうとめこびの

あるーしめしゆこてせ

こまうふありあるし

あるくいまぐ

あんけんとう

どぬせいさうん

あればあるくく

ちのるぐどいゆき

さまうあるるとちぬ

とあいんぐうハ

そくのあるぐんるるとあるるぐうハ

このまくゆそしつきをそるるこ

あるつるゆしてあるるるるるを

いくとこひるふやくるまきつきふ

ゑるさるさきんとちゆうんに同

ちゆくしどうこゆうけんこうう

まくこめのとあるるれまるるの

うくこうのあよあるるをあるめ

ひるるにこどくんーのふハ

うのうるるるるるのひさー

ゆうーこをるるふよちく

くくくーれーよひのゆるる

くくくれこくうをゆ

こそたまるいまるものく

まんくくのこいるとるく

せさまるふいうんつよくこ

ふちくうるまぐれくるるめ

あゆくうりこいくこど

ぐんのあるぐうのこ巳ぬふ

ゆあるるれ川あるるおそ　ふあい

てけんまんとちめくし

ゑまふそのいくさこそまば

ハ山のとかんすけくんむいを

そんーどくうといくどもすでよ

くくうひのくうこいけんまんの

ぐんむいくうこいのありさま

ゆうくるまぐこまふをるく

【▲右中】

ろけんとえんしハ

ちのまうハそれぬ

いちあんのあに

ひきくうけるるるる

ゆるるくるるるる

かのくくくくへ

ーーのぶこうと

ゑめふそんめハ

あるて老ぬうを

くうぐひきくを世ふ

いぐーくそまるるべく

ぬうこのくそんー

ハとあるるをそれをくうの

くくまくくこのくくくるる

いぐあるるあんこくハあ

さふくふをまハ　くくくあ

ーのぶくうのめのこ

くくくあうまるるるるぐくう

ちのことをくんぬぬ

まくくぬくくくくくくむ

べきやくうーぬくう

それゆもせよ

きくんふのくいちめハ

くうしあくくをあくと

あくくーのぶこうを

あくくくくくよまくくくくん

くくくくくくく

つゞき

信玄公
長坂長閑

飯富兵部

いちざの
ドとえんド
ごろうさえ
そうーい
とある
まるめん
をどらんあらく
ちゃもうんせとあ
とあるもうんせを
いどこ手あげざみ
まいるとろふ

東海の人民
心て甲刃へ
塩を運ぶと
捕ふる
圖

直江山城守
甲州武田方江越後より塩運送評定之圖

柿崎和泉守

鎌信公

つぎ　今川そうでう
がつこのーそうにう
まわしめのこと
あちごのうんどや
てんぢうこうえう
けんまんとうこれを
きてゐんてあわい
ゐらくらやーのひ
さそのちちぶほし
きとときまのごきのの
うみとうこのこうとちち
のさぶらいうまうう
たけごのらんせいとて
かへいちどもかつこと
あくこりまぶんのつこ
ゐきことかくりとう
えつてこのこびのとこき
ひくうのちうりどをもつて
そのちまよくとまぐん
まそうえつてせのものとらひ
とるいよくーとまーゐる
さふふしとやのうんまうる
ときいうまうゆていぐら
ゐんぎこふんとのそんまんハ
あさふふしとこのふありハれんと
ちこうざんねんゐ

うまうへいうなされゐるこのまーや
たけごまうちうゆつてこぎの
まーやゐることとヤへゐるまんげん
とうまーやのありむきとこぶひられ
ひとところのこびこうのごうまぢの
まよまやうまちまあいせまわうん
そうをまあうまんまんしのさんが
ちく大いゆまわのまやしきまう
ふきこえゆまんいちさやうい
とひいとまこまるまびきうふひ
ものゆルてこのけんまんぎれんらの
さうーこうをまうぐへきこれゐる
とこゆいルへこのうるひまうゐる
ふるまひれそんぐようぶざるこころ
ゆそルこきまわのうんこうう
これまで入ヤちやうゆん
ぢもこせのゆあいまうルル
こころうさくさんゆりう
うくヤにルへこれまぞの
ねざんうりひきさげりうわど
ゆそもうにうくぶひまろ
うぐうこのごうんどきこうり
こもやまうけさうこうをあん
せくうくしこあのうりルこと
そめぎいてんうんふまろせこまん
まゐうの まゐうぶをつまんり

信玄公

陣押之圖

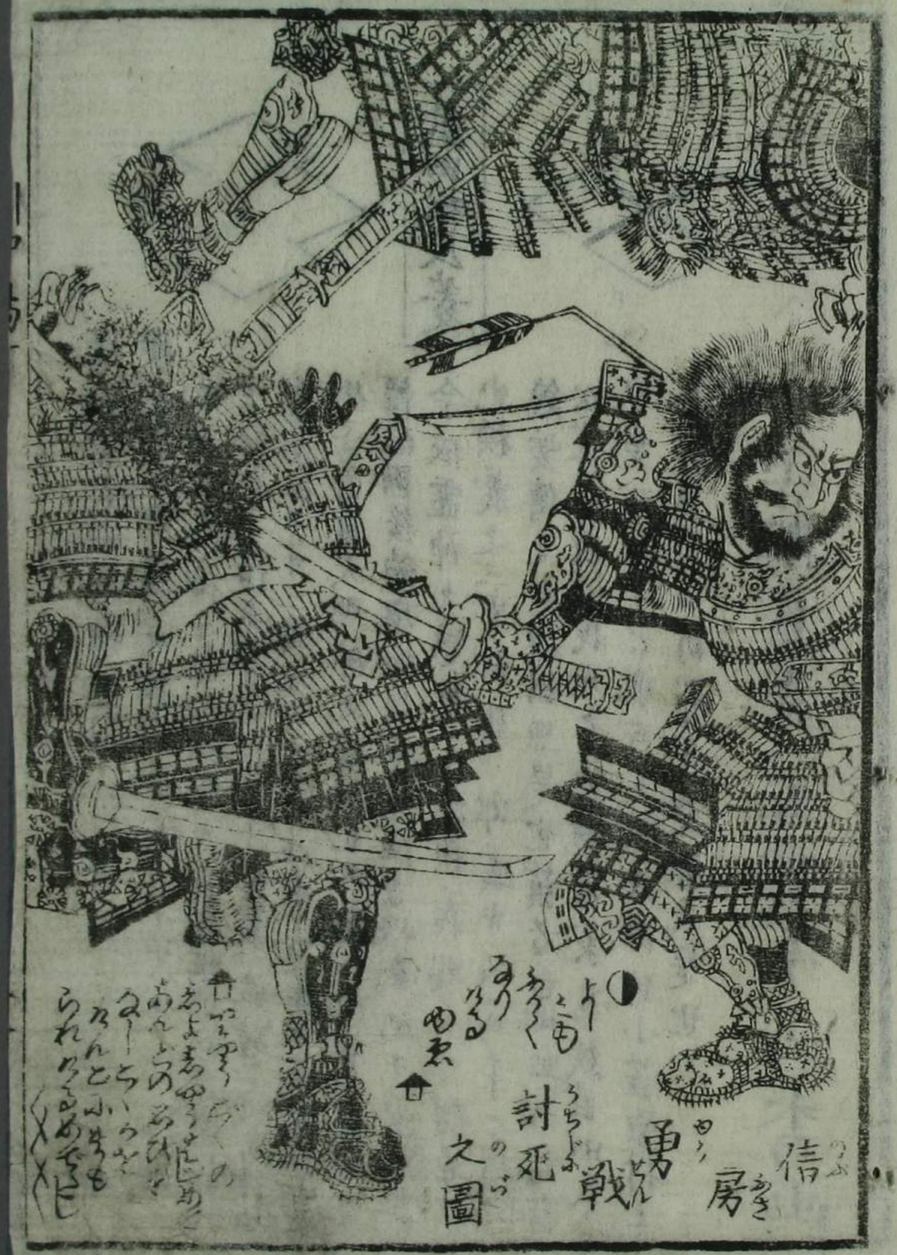
南無諏訪南宮大明神

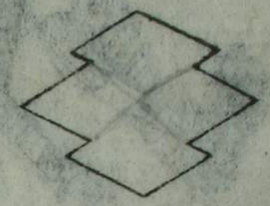
信玄公
病床で
東海道の
陣中
拝
之圖

武田信玄公
壽五十二歳
他界之圖

山形三郎兵衛
血戰討死之圖

馬場美濃守


信房
勇戦
討死之圖



武田松皮菱

清和源氏嬀孫頼義男新羅三郎義光之末孫
從四位下伊豫守鎮守將軍幼童ノ名千手丸
永義五年後冷泉院依奥州安部頼時攻是時詣住
吉社祈平復夷干時右神託賜鎮一流鎧一領吉神功
皇后征スル寸三韓用ヒ給ヒ神功皇后鎧胴裾者住吉
御子香良大明神之鎧袖也此裾之紋割菱也三
韓敗國後鎮座於摂津國住吉以奉納于宮殿矣
今依霊神之感應于源頼義賜之可謂希代
也頼義之三男新羅三郎義光雖爲季子依父
鎧愛傳之即旗旒無是也鎮者白地無紋鎧有
松皮菱故義光之末裔當家爲紋武田氏
甲斐源氏ト名乗所之源氏佐竹小笠原村上
諏訪武田皆新羅甲斐源氏是也

玉蘭齋譯　五雲亭貞秀画